

VIVID LETTER

これからの特定非営利活動法人	1
VIVID 活動レポート	2
VIVID 事業カレンダー	3
ひとこと通信	3
見学者の声	4
お知らせ	4

なんでも相談
毎週木曜日
午後1時から3時
専用電話
**03-6380
-2015**

“VIVID”は高次
脳機能障害者の
社会参加を支援
する特定非営利
活動法人です。

特定非営利活動法人 VIVID (ヴィヴィ)
〒160-0021
新宿区歌舞伎町2-19-13 ASKビル601
TEL&FAX 03-5849-4831
Eメール hbd-vivid@coast.ocn.ne.jp
HP <http://www.vivid.or.jp>

これからの特定非営利活動法人(NPO法人)

日本社会事業社会事業大学専門職大学院

特任教授 田 島 誠 一

阪神淡路大震災を契機に、市民による自由で自発的な活動に適した法人格が求められ、「ボランティア活動をはじめとする市民が行う自由な社会貢献活動としての特定非営利活動の健全な発展を促進」(法第1条)するために、特定非営利活動法人促進法が制定されました。市民による自由な活動を促進するために、主務官庁による許可ではなく、「認証」という方法で設立出来ることになりました。非営利で公益的な活動をする団体が、従来よりも簡便に自由に法人格を取得できるようになったのです。こうして始まった特定非営利活動法人(NPO法人)は、平成25年11月末日現在全国で48,498と法人数は膨大な数に成長しました。



2003年、日本NPOセンターが以下の「信頼されるNPOの7つの条件」を示しました。10年前の指摘ですが、今日も重要なものだと思います。

1. 明確なミッションを持って、継続的な事業展開をしていること
2. 特定の経営資源のみに依存せず、財政面で自立していること
3. 事業計画・予算の意思決定において自律性を堅持していること
4. 事業報告・会計報告などの情報を積極的に公開していること
5. 組織が市民に開かれており、その支持と参加を集

めていること

6. 最低限の事務局体制が整備されていること
7. 新しい仕組みや社会的な価値を生み出すメッセージを発信していること

ところで、NPO法人は転機にさしかかっているように思われます。一つは民法から公益法人制度が切り離され新公益法人制度ができたことの影響です。公益社団(財団)になるには厳しい認証をクリアしなければなりません。一般社団(財団)法人であれば、設立が非常に容易で、行政による監督もほとんどありません。NPO法人が市民に支えられ、情報の開示などにより市民により「統治」されるという面を強調していかなければならないと思われます。第二は、後継者の育成です。阪神淡路大震災以前から市民活動に参加していた人たちを第一世代とすると、その後に加わってきた第二世代が徐々に活動の中心を担うようになってきています。設立時の志をどのように継承していくのが重要になっています。第三は、上記の課題を支えるための経営です。多くのNPO法人の事業規模が非常に小さく、自立し自律することが困難な状況が見えます。「7つの条件」に照らして自己評価し、自己革新を目指すことが求められているでしょう。

田島さんのプロフィール

《主な略歴》(社福) 聖隷福祉事業団本部事務局総務課長、病院事務長、高齢者総合施設総合施設長などを歴任。2005年、(財)日本老人福祉団常務理事、理事長。厚生労働省社会・援護局「社会福祉法人経営研究会」委員(2006年)、東京都福祉保健局「社会福祉法人経営適正化検討会」委員(2009年)、全社協「福祉職員キャリアパス対応生涯研修過程運営委員会」委員長(2012～現在)などを務めてきた。

《主な研究分野》社会福祉法人の経営。福祉人材の育成。

《著書》・社会福祉法人の経営改革(社会保険研究所、2009年)

・病院管理 共編(建帛社、2012年)

高次脳機能障害者支援セミナー 「地域につなぐ日々の リハビリに向けて」

今年の高次脳機能障害者支援セミナーは、11月3日（月・祝）13時30分から新宿区戸塚地域センターで実施しました。



初めに、渡邊修さん（東京慈恵会医科大学附属第3病院リハビリテーション科診療部長）の「地域につなぐ日々のリハビリに向けて」～高次脳機能障害専門外来医から～と題しての講演がありました。

主な内容は、高次脳機能障害の疾患群、リハビリテーションの手順、外来で心がけていること、症例の紹介、社会的行動障害を減らすため、求職活動支援に入るための条件、地域の作業所、施設状況等でした。

休憩後は、「受傷から今日までとこれからについて」として、小宮紀子さんへ、渡邊修さんからのインタビューがありました。小宮さんは交通事故で前頭葉の損傷、骨折により足の傷で現在でも治療中ですが、就労も実現しました。渡邊修さんからのインタビューで、事故当時の状況、今の気持ちなどが語られました。

参加者からは、大変分り易く、発症から就労支援の流れが良く分った、また、当事者の方が客観的に振り返られて話をしてくださり、大変勉強になりました、小宮さんの言葉の数々を他の当事者やご家族の方に伝えていきます等、理解を深めたとの多くの声がありました。

《対談を終えて… 受傷からきょうまでと これからについて》

ハイリハ東京 小宮紀子

昨年11月のセミナー、お世話になりました。

当初、私のたどった道をなぞりながら、進めていくと思っていましたので、渡邊修先生から頂く質問が、意外な内容だったことを、最初に記します。

「もし、そうでなかったら？」という、仮説を立てた推測でした。

セミナー当日の打ち合わせの時、16年前の交通事故から今年の就職までの、私の年表を見て、先生から「足の傷の悪化していた数年の安静期間がなかったら、就職までの年数が早まった？」と、訊かれ、思考を止めて、その頃に時間を巻き戻して、考えました。

それは「NO!」でした。おそらく、その期間がなかったら、今でも就職を考えられないばかりか、先のことなど何一つ

考えないで、当然のように、家で家族にしてもらおう、守ってもらおう毎日だったかも知れません。

歩行を止められて、家の中さえ歩かないように言われていた間、色んなことを考えていました。結果、いらだちや諦めの末に、初めて「前」を見始めました。

初めて、自分の「これから」と、その為の行動を考えるようになった、と思います。

私の足は、神経が切れている為、動かない期間があると、動けなくなるまでが、早いのです。傷が良くなって、歩行がOKになった時に、すぐに歩けるように、足の筋力を維持する筋トレを家で続け、傷が回復した時に、その一瞬の機会を逃さず、東京都心身障害者福祉センターに入所して、障害があっても、対応次第でクリアできることを学び、その後、都や区の色々な機関に、背中を押してもらって、就職まで進む事が出来ました。

先生の質問に答えていく中で、動きのない停滞期間が、実は、その後のジャンプにつながる、身を低くかがめて力をためている大事な期間だったことに、気が付いてきました。

結果、自然と、全てのことに、「マル!」を、あのセミナーの中で、出していました。

あの中で、穏やかに自分の今までを受け入れるような気持ちになっていきました。

今後、あのセミナーでの気づきが、私の大切な糧になっていくと思います。

先生との貴重な機会を頂き、ありがとうございました。



12月のミニデイで クリスマス

ケーキづくり

12月のミニデイは、前半の7日はリーディング劇の読み合わせと折り紙。

街にイルミネーションが輝き、クリスマスも間近な後半の21日は、音楽セラピーとクリスマスケーキづくりに挑戦しました。場所はいつもの新宿けやき園、参加者は10名、ご家族は8名で、スタッフがサンタクロースの帽子をかぶり、クリスマスの雰囲気 연출 中、ケーキづくりでは16センチのスポンジケーキに一人ひとりが、イチゴ、みかん、チョコレート、サンタクロースなどをトッピングしました。

一番苦労したのは、生クリームを泡立てる作業でしたが、全員思い思いのデコレーションケーキを仕上げました。

お互いの作品を見せ合い、家族の方と分けあい、楽しいおやつタイムとなりました。

サンタクロースのコスチュームに身を包んだスタッフと共に



VIVID 事業カレンダー

活動実績

※専門相談員によるなんでも相談
(電話) 毎週木曜日

- 8月**
- 6日 区立障害者福祉センターと利用者のカンファレンス
 - 11日 第2回TKK 高次脳機能障害 実践的アプローチ講習会
 - 21日 新宿区相談支援窓口連絡会
 - 24日 ミニデイサービス(個別面談)
 - 26日 医療法人社団輝生会 初台リハビリテーション病院訪問
 - 27日 JR東京総合病院訪問
 - 27日 TKK ミニ講演会
 - 28日 慶応義塾大学病院訪問
- 9月**
- 2日 ケースカンファレンス 当事者家族、都身障、中部総合精神保健センター、区障害福祉課
 - 4日 新宿区への予算要望
 - 8日 港区高次脳機能障害理解促進事業講演と家族交流会
 - 14・28日 ミニデイサービス(家族プログラム)
 - 18日 セミナーの打合せ 小宮さん
 - 19日 高次脳機能障害関連団体連絡会(新宿区社協)
- 10月**
- 4日 国立リハビリテーションセンター研修(講師)
 - 12・26日 ミニデイサービス(家族プログラム)
 - 20日 スタッフ研修(社会事業大学フォーラム参加)
 - 23日 セミナー講師渡辺さん、小宮さん打合せ
 - 23日 新宿区相談支援窓口連絡会
- 11月**
- 3日 VIVID 高次脳機能障害者支援セミナー開催
 - 9・30日 ミニデイサービス
 - 13・14日 新宿区高次脳機能障害者友の会アンサンブル一泊旅行
 - 19日 スタッフ研修(ミニデイサービス・スパービジョン)
 - 21日 港区高次脳機能障害者理解促進事業研修
- 12月**
- 29日 TKK 東京都へ予算要望書再提出

- 7・21日 ミニデイサービス
- 7日 新宿区区民の生活ニーズ調査ヒアリング(利用者)
- 8日 第3回TKK 高次脳機能障害 実践的アプローチ講習会
- 9日 都中部総合精神保健福祉センター職員来所
- 15日 新宿区立障害者福祉センターセンター祭(参加)
- 18日 新宿相談支援窓口連絡会
- 11・25日 ミニデイサービス

1月

今後の主な予定

8月~

1月

高次脳機能障害 なんでも相談
電話相談(月~金 10~17時)
面接相談
(毎週木曜日・第2・4土曜日 13~15時)
ミニデイサービス 第2・第4土曜日

VIVID 発表会のお知らせ

ミニデイの利用者全員による一年を締めくくる発表会です。発表に向けてミニデイの日や自宅でも練習しました。

どなたでも、ぜひいらしてください。

日時: 3月22日(土) 午後1時~

場所: 新宿けやき園(新宿区百人町4-5-1)

「高田馬場」駅から徒歩8分

発表の内容: リーディング劇「聞き耳頭巾」-木下順二原作 大塚みどり書き換え

その他作品展示、ゲストによる音楽演奏など、ご期待ください。

ひとこと通信

ミニデイ利用者の投稿

泣いて 笑って 明日は天気!

テレビのバラエティ番組を見ている。楽しそうにケラケラと声を出して笑う。何が面白いのかなとみると、あっという間に別のチャンネルに変えている。じっと一つの番組を見ることはない。コマーシャルが入るとすぐにチャンネルをかえ、さっきの番組がわからなくなる。

ニュースを見ている。東北の被災地の場面になると必ず「かわいそうだね」と涙顔になる。

昔の歌を思い出し、泣きじゃくる。「泣いた後は気持ちがいいね」とケロツとして言う。

父と大河ドラマを見ている。悲しい場面になると涙ぐむ。最近では事前に予想するのかテレビの前で本を広げたり電子手帳をいじったりしながら、ちらちらと画面を見て泣くのを避けている。

少しずつ少しずつ変化してきている。まだ幼さが残るが、家族の役に立ちたいという気持ちが日々感じられる。体調が悪くて寝ていても、「お昼を買いに行こうか」と

声をかけてくれる。無邪気な笑顔が何よりも私を癒してくれるが、日々確実に実年齢に戻っていく。

ミニデイに行くのをとても楽しみにしている。まだ少し緊張気味だが、行くたびにくつろいでいるようだ。発病してからは医者と看護師、家族との接触しかなく、みんなの輪の中で自分の話をできる機会が与えられ、うれしいのだろう。「みんな同じような人たちだから安心できる」と仲間意識が芽生えてきているようだ。

ながく一人暮らしをし、また戻りたいというのが彼のいちばんの望みだ。それにはたくさんのハードルを乗り越えなければならないと言う事を本人は自覚している。今はまだ周りの人たちにサポートされているが、自立できる日が来ると信じている。

今朝も彼の元気な声が聞こえる。

「今日はお天気がいいから富士山を見に公園に行こうよ」富士山が見えるといいけれど……明日は天気!!!

(中野区在住 三村芳子 母)

★お料理の会

2年前にスタートした「お料理の会」も、昨年10月で10回目となりました。

10月20日(日)10時から太田三枝子さん宅で実施、新宿区障害者福祉センター祭りの打合せを兼ね、当事者、ご家族合わせて15人が参加しました。

献立は、ジャガイモのフライ、野菜炒め、竹輪とインゲンの中華風和え物、甘酒。おしゃべりに花を咲かせ、秋の味覚は一段と美味しく、楽しい一日でした。

★八ヶ岳～旅行

「時間を気にしないでゆっくりおしゃべりたい」「みんなで美味しいものを食べたい」「行った所のない場所でゆっくり景色を観たい」など会員の要望から、家族会の一泊旅行が初めて実現しました。深まりゆく秋、晴天に恵まれ、11月13日(水)～14日(木)、場所は、新宿区区民健康村「グリーンヒル八ヶ岳」(山梨県北杜市)です。この施設は八ヶ岳の麓にあり、南西に南アルプスを望む景勝の地、豊かな自然環境に恵まれた場所にあります。

参加者は総勢14名、バスで出発し、尾白川溪谷では恐る恐る吊り橋を渡り、立ち寄った酒蔵では美味しい地酒を試飲し、ホテルでは、言葉ビンゴゲームを楽しみ、降るような星空を眺め、次の日は天然水・ウイスキーの蒸留所の工場見学、道の駅に立ち寄り信玄餅のお土産を手に帰路につきました。

★新年会

新しい年が明け、家族会の新年会が開かれました。1月19日(日)12時から、場所は新宿区内のマンション集会室、寒い中15名の方が参加しました。鶏のから揚げ、大根とスジ肉の煮物、ポテトのクリームグラタン、サツマイモの甘煮、白菜の即席漬け、キャベツのコールスロー、おにぎり、スープ、デザートには杏仁ゼリーをすべて完食。2月のコンサートの練習をし、今年目標や抱負など語り合いました。

VIVIDからのお願い

VIVIDでは、私たちの活動趣旨に賛同し、会員、賛助会員、寄付者になっていただける方を募集しています。また、VIVIDの活動につきましては、当広報紙のほか、ホームページもぜひご覧ください。

<http://www.vivid.or.jp>

年会費

会員 個人 5,000円 団体 10,000円

賛助会員 個人 5,000円 団体 10,000円

寄付 金額に規定はありません

当広報紙をお読みになった感想、活動にたいすご要望、ご質問等お寄せください。

TEL・FAX 03-5849-4831

昨年12月21日のミニディには、5名の方が見学に見えました。その中のお一人が感想をお寄せ下さいました。

VIVIDにお邪魔して

今回お邪魔させていただいて、「いつ受傷するかも、いつ受傷した子の親、家族になるかも分からない高次脳機能障害。その時、どんな展望を持って、どんな毎日を過ごすことになるのか…」という想いで一杯になりました。お弁当を頂きながら明るくお話しするご家族の様子に、障害の深刻さ、現実の厳しさを垣間見た気持ちになりました。

明らかにこれまでと違う新たな自分たちを日々の生活に馴染ませていく…それだけでも大変なこと。医療の進歩によっていただいた人生。でも社会が追いついていない。その社会に自分たちの場所を作らなければならない…そして終わりが見えない。どれだけの葛藤とご苦労を負っていらっしゃるか、と。

暖かな日差しの中、ご本人たちもご家族も仲間同士で過ごせる心地よさ、肩の力が抜ける貴重なひと時を過ごしているのを肌で感じ、ホッとできる場所が家の近くにあるのが当然の社会はどうしたら作れるのか、そんな地域を作りたいと感じながら家路に着きました。ありがとうございました。

社会福祉士 石井今日子

高次脳機能障害研修会

講演とパネルディスカッションにVIVID代表が出席

国立障害者リハビリテーションセンター 高次脳機能障害情報・支援センター主催の、「福祉関係者のための高次脳機能障害研修会」が10月4日(金)、埼玉県所沢市にある国立障害者リハビリテーションセンターで開かれました。

この研修会は、高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業の一環として、就労継続支援事業所や地域活動支援センター等において日中活動支援に従事している職員を対象に、福祉の現場における高次脳機能障害の理解を促進することを目的に開催されました。

講演者は4人、そのうちの1人として「利用者どうしが育ち合う、地域の居場所づくり」をVIVID代表理事、池田敦子が講演しました。後半はパネルディスカッションで様々な取り組み、質問など出されました。また、当日はVIVIDのスタッフ3人が研修として参加しました。

編集後記

「高次脳機能障害」一最近、新聞、テレビなどで、以前より目にする事が多くなりました。しかし、多くの方々に理解していただくために啓発の充実が必要です。今回、一部カラー写真を使ってみました。今後も定期的発行に努力してまいります。(あ)